埼玉県議会議長賞

川口市立戸塚西中学校　一年　渡邊　愛佳

　権利と義務

　先日、私の住んでいる地域で県知事選挙があった。選挙が近くなると、ポスター掲示板が設置され、ビラが作成される。父母には投票用紙が郵送されてくる。これらのものを通して私は選挙があることを知り、どんな人が立候補しているのかを知る。

　これらのポスターやビラ、投票用紙を準備するのには多額のお金が必要になるはずだ。そして、そのお金が何でまかなわれているのかを調べると、その大半は税金だった。私たちが支払っている消費税や、大人が支払っている住民税や所得税などの税金は、その一部が選挙の費用になっていた。

　また、それらは当選した人の給料となり、その人達が税金の使い道を決めることになる。政治家の大きな役目は、住民が期待した税金の使い方を現実化していくことであり、有権者は自分の希望に合った政策をとってくれる政治家を選ばなければならない。

　しかし選挙に行かず、政治家の対応に不満だけ言う人も多いのではないだろうか。自分たちの納めた税金をどう使ってほしいかを示さず、不満を抱くだけでは、世の中は何も変わらない。選挙に行き、税金をどう使ってほしいかを投票によって示す人が少なければ少ないほど、政治家は住民に寄りそいづらくなる。政策を立てにくくなる。選挙に行かないということは、自分たちが納めた税金はお好きにどうぞと言っているのと同じだ。それで不満を言われたら、政治家はたまったものではないだろう。

　逆に、税金を毎日のように納め、選挙へ行き、本気で社会を変えたいと願っている人もたくさんいるはずだ。社会に対しての関心の有無、選挙に関しての関心の有無、そして自分たちが納めた税金の使い道についての関心の有無は人それぞれかもしれない。けれど、何事にも関心を持たず無視しているよりも、希望を持った方が楽しいし、より良くなる可能性が高まることは確かだ。

　だから税金に対してマイナスなイメージを持ち、政治に不満を抱き、「どうせ変わらない」と思い続けるより、自分たちが納めている税金で何かが変わるかもしれない、このお金が素敵な社会にしてくれるかもしれないという希望を持って過ごした方が、税金に対するイメージも社会に対する考え方も変わるだろう。

　選挙に行くか行かないかは個人の自由だ。でも、税金は納めなければならない。納めたものの使い道を選挙で選んだ政治家にたくすわけだから、税金と選挙の関係は不可決だ。だから、私は将来有権者として、納税者として、その権利と義務をしっかり果たしていきたい。そしてより良い未来への希望を持ち続けたいと思う。